

「賛否の分かれるラストシーン」

地理歴史科 宮崎 久道

この夏、スタジオジブリの最新作『君たちはどう生きるか』が公開された。私は、この作品に関する事前の情報があまりにも少なかったことから映画館で見るか迷っていた。そんな時に、「全く面白くなかった」「見ないと後悔する」と賛否両論な2人の友人の感想を聞き、見に行こうと決心した。結果、私にとっては「面白い」作品だった。

読書でも同じような経験をしたことがある。高校2年生の秋、図書委員長をしていた私は、県内の文芸部や図書委員が集まるビブリオバトルの大会に参加した。持ち回りの司会が当たってしまったため、選手としての準備と司会としての準備で大変だったことを覚えている。結果として、勝つことはできなかったが、大会そのものは楽しかったし、なにより読書好きな友人ができたことがうれしかった。さらにうれしかったのは、彼らのうちの何人かが私の紹介した小説を読んでくれたことだ。しかし、そのうちの1人から、「ラストシーンが気に食わない」という感想が出た。私は、みんなが納得するラストシーンだと思っていたので、彼の否定的な感想を聴いてびっくりした。どうしてだろうと話をしてみると、ストーリーの解釈が私と違うことが分かった。彼の考え方に触れた結果、同じ小説を読んでも、読み取り方は人それぞれで、どれも正しいのかもしれないなど考えるようになった。読書のよいところは、自分にはない価値観に触れることができる点だと思う。

せっかくの機会なので、ビブリオバトルで紹介した記憶をたどりつつ、皆さんにも私の大好きな小説であるレイ・ブラッドベリの『華氏451度』を紹介する。1953年に書かれたこの小説は、本を読むことはおろか、そもそも本を所持することが禁止されている近未来を描いた作品である。違法に所持されている本を発見し、建物ごと燃やす「昇火士（ファイアマン）」という仕事をしているガイ・モンターグという主人公が、様々な人物との交流を通し、自分と自分を取り巻く世界を見つめなおすストーリーである。この作品の見どころは、1953年に書かれた小説とは思えないほど現代の社会を言い当てていることである。モンターグの妻であるミルドレッドは、「巻貝」とよばれる耳に取り付けて情報を得る機械を装着し、壁のスクリーンに映るオンライン上の誰かとの会話に夢中になっている。これは、イヤホンをつけて、スマートフォンでSNSやオンラインゲームに夢中になる現代の人々そっくりではないだろうか。本の所持が禁止されている暗い社会を疑うことなくまっすぐに生きているモンターグが、作中の人物とのやり取りを通して社会に疑問を持ち、もがいて苦しんで進んでいく。手に取ってもらえると嬉しく思う。皆さんは、ラストシーンをどう受け止めるだろうか。

※ 『華氏451度』は、11月に購入する予定です。お楽しみに・・・

やっぱり私は 紙が好き。

(6-4)

先日、読書標語を募集し、皆さんに出していただきました。図書委員による投票の結果、上記の作品が最優秀に選ばれました。また、優秀作品は、下記のとおりです。標語を考えていただいた皆さん、どうもありがとうございました。(各クラスの代表作品は、図書館に掲示していますので、ご覧ください。)また、選ばれた3人の皆さんには、ミニ賞状と図書委員お手製のしおりをプレゼントします。

○ 十冊 十色 (5-1)

○ 図書館に 自分好みの 本探し (5-3)

～11月購入予定本の紹介～(●は皆さんから購入希望があった本です。)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| ● 『恋文の技術』 | 森見登美彦 【著】 |
| ● 『葉と嘘の季節』 | 米澤穂信 【著】 |
| ● 『カゲロウデイズ』(VI～VIII) | じん 【著】 |
| ● 『人獣細工』 | 小林泰三 【著】 |
| ● 『闇の牢獄 (1)』 | ダヴィド・ラーゲルクラutz 【著】 |
| ● 『恋とポテトと夏休み』 | 神戸 遥真 【著】 |
| ● 『クロワッサン学習塾』 | 伽古屋圭市 【編】 |
| ● 『これが正解！きれいな食べ方&マナーBOOK』 | 宝島社 【編】 |
| ● 『わたしのうちには、何にもない。(2)なくても暮らしていけるんです。』 | ゆるりまい 【著】 |
| ● 『草迷宮』 | 泉鏡花 【著】 |
| ● 『外科室・海城発電他5篇』 | 泉鏡花 【著】 |
| ● 『太陽の塔も』 | 森見登美彦 【著】 |
| ○ 『華氏451度』 | レイ・ブラッドベリ 【著】 |

11月末まで、図書委員オススメの本の展示をしています。また、4月から10月までの「貸出ベスト19」も掲示中。ちなみに、1位は桃戸ハルさんの『5分後に意外な結末』シリーズです。そして、2位は麻希一樹さんの『「悩み部」の栄光とその慢心。』そして、3位にランクインしたのは、大人気俳優と女優で映画化されたあの人気シリーズ。それは……見に来てね！

図書館の返却BOXに、東野圭吾さんの『虚像の道化師』の文庫本が入っていました。図書館の本ではありません。心当たりのある人は、図書館に来てください。